



発行所  
 日本聖公会 東北教区  
 仙台市青葉区国分町2-13-15  
 TEL 022-223-2349  
 FAX 022-223-2387  
 URL <http://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」  
 「主の摂理に任せましょう」

司祭 ドミニコ 李 賛熙

イエス様は多くの悩みの中で12人の弟子たちを選ばれました。つまり、旧約聖書の12部族を代表していると思えます。ところが12人の中にイエス様を裏切る人も選ばれたという事です。どうして全能な方が弟子一人を間違つて選んだのか？ 考えると、私たちも生きている中で「あーあの友だちがいない方が、私たちのコミュニティはいいのに。…」と思うことがあります。

しかし、絶対に神様があきらめないのは、私たち自身がイエス様のようになることができるという希望です。これは、イエス様が贈り物としてくださった自由意志を通して成し遂げられるのです。したがって、イエス様は一度与えられたこの贈り物を奪われな

いのです。  
 この自由意志を通してイエス様を裏切ることもでき、イエス様のために命を捧げることもできるのです。完全にイエス様がくださった贈り物なので、神様はこの自由意志を侵害してはなりません。ところが欲望は罪を生み、罪は死を生み出すように、人間は神様を裏切り、神様が贈り物として与えられた自由意志を互いに侵害



します。  
 イスラエルの民が侵害しないのは土地です。神様から受けたので、売買ができないと

すように、人間は神様を裏切り、神様が贈り物として与えられた自由意志を互いに侵害します。  
 アハブ王に、神はエリヤを送り、「その罪に災いを下し、子孫を掃き捨て、アハブに属する男は自由人であっても、イスラエルから取り除いてしま

う」と言われます。アハブ王はこの言葉を聞くと、自分の

ともできるのです。完全にイエス様がくださった贈り物なので、神様はこの自由意志を侵害しません。ところが欲望は罪を生み、罪は死を生み出すように、人間は神様を裏切り、神様が贈り物として与えられた自由意志を互いに侵害

します。  
 アハブ王に、神はエリヤを送り、「その罪に災いを下し、子孫を掃き捨て、アハブに属する男は自由人であっても、イスラエルから取り除いてしま

う」と言われます。アハブ王はこの言葉を聞くと、自分の

いうことです。  
 北イスラエルのアハブ王は宮殿の隣にあるナボトのブドウ畑を売るように言います。ナボトは「先祖から受け継いだ地をあなたに譲ることなど、主は決してお許しになりません」(王上21:3)と言います。その言葉に腹を立て宮殿に戻ったアハブ王に異邦人の王妃であるイゼベルは、アハブ王の名で手紙を書いて彼の印章で封印し、その手紙をナボトが住む町の長老たちと貴族たちに送り、「神と王様が呪った」という理由でナボトを殺させました。そしてアハブ王にそのブドウ畑を占拠するように言います。しかし、ブドウ畑に行った

7月30日開催 常置委員会主催報告会  
「わたしたちがこれから進む道」報告

7月30日(土)13時から、主教座聖堂で、常置委員会主催の報告会「わたしたちがこれから共に進む道」が開催されました。

この会は、2023年4月以降、私たち東北教区が「宣教体制の強化と教区再編」という課題を、伝道教区となつて管理主教のもとで考えていくことが良いのか、それとも、新主教のもとで信徒・教役者が一緒に十分に時間をかけて理解を深めて検討していくことが良いのか、常置委員会が出した結論の報告会で、教区会代議員をはじめ、ハイブリッドでの参加者も含め、多くの関心を持たれた方々が報告に耳を傾けました。

先ず始めにこれまでの経緯の確認がありました。常置委員会は、意思決定までの時間が限られる中、その決定に至るプロセスには多くの人が参画し、意見をまとめる必要があります。自分事としてこの問題を捉えていくことが大切だ

と考えました。そこで4度の研修会を開催、アンケートの分析もし、教役者会とも意見交換をして、日本聖公会の活性化を目的とする協働の業への取り組みを、どのように進めるのがよいのか、可能な限り多くの方の思いを聴いてきました。

当初は聖職を含めた多くが、法規改正に速やかに「伝道教区移行」するとの意見が大勢を占めていましたが、回を重ねるうちに、目的は「宣教協働体制の強化」と、そのための「教区再編」にあることが理解されはじめ、徐々に「教区主教選出」へと全体の意識が変化してきました。その理由の1つには、伝道教区に移行すれば高い割合で主教補佐が置かれることが想定され、その主教補佐の役割・権限が明確でない現状では、管理主教のもとでの主教補佐というリーダーシップよりも、自らが選んだ主教職としてのリーダーシップが望まし

いことが挙げられます。また、他教区からの主教選出が難しい現状において、教区内から主教を選出すれば、現役司祭マイナス1となるものの、それを教区が一丸となって克服できれば、「主教選挙」の道に進むのが望ましいと教役者会でも纏まりました。

次に、以上を踏まえた常置委員会の結論が示されました。

東北教区の現状において「伝道教区として歩んでいくこと」は、未だ十分な共通理解が得られておらず、そのまま大きな不安を伴って進むことは、想定される協働先方教区に「依存・依拠」してしまいう恐れがあり、教区としての一致にも支障を来す可能性があること、現時点では、伝道教区への移行は時期尚早であると考えられること、それゆ



え今の私たちが進む道は、新主教を選出し、新主教のもとで信徒・教役者が共に十分に時間をかけて宣教協働について理解を深め、検討していく道が望ましいという結論です。宣教体制の強化と教区再編について考えていく上でも、相互の協働教区に主教がいた方が、あらゆる面でバランスがとれると考えられること、主教を選ぶことで「宣教力を落とすことなく、教区がアグレッシブに「変わっていく」可能性があり、教区の宣教方針に基づいて自らを「開いて」いくことにも繋がっていく、という結論が示されました。

さらに、教役者会との話し合いも踏まえた常置委員会の見解として、新主教は、現役司祭がマイナス1となることをネガティブに捉えず、東北教区から選出することで、教区に対する理解や課題の共有等も遅滞なく行うことができると、また、数的には協働を余儀なくされることから、

主教一人に依存せず、結果として「聖職中心主義からの脱却」、信徒もこれまで以上に

教区の営みに加わるトータル・ミニストリーの具現化が期待できるとの表明もありました。新主教のもとで教区が一丸となって「宣教協働」に積極的に取り組めば、それは宣教体制の強化と教区再編へと教区を「開く」ことにも繋がりが、その過程で、更なる聖職養成にも注力できるのではとも表明されました。

質疑応答では、「この主教選出をきっかけに、聖職だけに頼らずに、信徒皆が様々なことをやっていくという姿勢が強まれば良い」、「東北と北海道の広さを考えると、主教と聖職を支える仕組み作りが大切だ」といった意見が出され、

主教選挙に実施に向けて、被選挙者の情報を教区民がしっかりと共有出来るようにしてほしいとの要望や、この会の参加者が、広く教区民に伝えることが必要だとの声も聞かれました。

この決断によって進み始める、私たち東北教区の新しい道を、これまで以上に信徒・聖職が一丸となって尽力していければと願っています。

(常置委員会担当記)



宣教協議会って

なんですか その2  
2012年宣教協議会

「歴史への責任と21世紀への展望」と題した95日本聖公会宣教協議会の「日本聖公会の戦争責任に関する宣言」以降、日本聖公会は韓国・フィリピンをはじめアジアの諸教会との交わりが深まりました。1998年のランベス会議でも紹介され、多くの国人に感銘を与えました。しかし、より具体的に進むため、2008年日本聖公会第57(定期)総会において、以下3つの目的をもって2012年に再び宣教協議会を開催することが決議されました。1. 教会の直面する現状を分かち合い、具体的な宣教ビジョンを構築すること、2. 日本の社会における教会の使命・宣教について再認識し、具体的な方策を検討すること、3.

世界に対し、1995年の戦責告白を踏まえ、日本聖公会が「平和の器」として用いられるため。

2012年の宣教協議会には全教区の主教と各教区の代表者たちが集まりました。これは前回の協議会では叶わなかったことです。そして管区諸委員会、大韓聖公会からの代表を迎えて140名が集まり、9月14日〜17日、静岡県浜名湖畔の研修施設「カリアック」を会場に開催されました。

2010年にはプレ宣教協議会が開かれ、「宣教する共同体のありようを求めて」とした準備が進められていきました。その途中の2011年3月、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所爆発事故が起きます。大きな犠牲と被害を目の当たりにして、宣教や教会のことは、もはやこの災害によってもたらされ

た事態・現実とは無関係に考えることはできないと思いい知らされました。

「いのち、尊厳限りないもの」宣教する共同体のありようを求めて」

宣教協議会の初日、ベリス・メルセス宣教修女会の清水靖子シスターによる特別講演「イエスの道を歩く〜未踏へのチャレンジ・未来の子どものために〜」で、福島原発事故の現実、キリスト者としての生き方をどう選択するのかが問われました。また「いっしょに歩こう！プロジェクト」の報告では、現地の人々の悲しみや苦悩の傍に共にたたく教会、その只中における主イエスの姿が示されました。

二日目、西原廉太司祭(当時)の基調講演を通して、日本聖公会の宣教を考える多様な宣教ビジョンが資料とともに提供され、笹森田鶴司祭(当時)によるバイブルシェアリングでは「わたしたちは何者で、何をすべき存在であるのか」、多様さを抱えた被造物

人間の使命について分かち合われました。

参加者はこれからの教会のビジョンを語り合い、最後に「日本聖公会へ宣教・牧会の十年」提言にまとめられました。閉会聖餐式説教で植松首座主教(当時)は「私たちの日常の中に宣教の現場がある」と語られました。各教会に配られた「2012年日本聖公会宣教協議会報告書」にこれらの詳しい内容が載っています。

それぞれの場で歩んできた私たちの「宣教・牧会」を振り返り、新たに向かうために。次の宣教協議会は来年11月に開かれます。



2012年宣教協議会の様子

常置委員会報告  
(第9回・7月19日)

◇常置委員長報告

室根聖ナタエル教会居住条件覚書について、他を報告。

◇協議事項

- (1) 聖公会生野センター設立30周年記念感謝礼拝について…出席候補者を選定。募金等について各教会に周知することを確認。
- (2) 新型コロナウイルス感染症による礼拝等に関する教区内への新たな指針の発信について…現状に合わせた内容を簡潔に纏めた指針のNo.9を作成し発行することを承認。
- (3) 教区諸規程改正について…災害補償規程を規則・規程グループ提案の通りに認めること。旅費ガソリン単価16円/kmとする措置を半年延長することを承認。
- (4) 次期(定期)教区会について…会場をアートホテル盛岡とすることを承認。
- (5) 次期主教選挙を行うかどうかの意見集約への道程に関する件…常置委員会主催報告に向けて、最終確認をした。



学校法人みその幼稚園

副園長 阿部 萌美

みその幼稚園では毎週行われる合同礼拝、そして月に1度の誕生会にて渡部拓司祭様はじめ園長先生そして諸先生方よりの聖話を聞きます。子どもたちに「神様のお話は好きですか?」と尋ねると「好き!」だって神様のこと知れるから!」と嬉しい答えが返ってきます。園児たちが目を輝かせながら聖話を聞く姿や心静かに祈りを唱える姿をみるとキリスト教保育の大切さや深さを感じると共に「神様の幼稚園」としてのミッションを改めて感じます。

七夕お遊戯会目前のある日、バスの中でお遊戯会の話

をしていると、年長男児が「明日は年少さんと年中さんの本番だね。僕、おうちでみんなが頑張れるようにお祈りするよ!」と話すので近くに座っていた年少児が「お祈りしてくるの?ありがとう。」「うん。いいよ!」と互いに顔を見合わせとても嬉しそうな表情を



しながら会話をしている場面がありました。なんて素敵な会話だろうか、心が温かくなり幸せな気持ちになったと同時に日々のキリスト教保育の積み重ねが園児たちの心の成長となっていました。7月8日9日と

2日間に分けて行われた七夕お遊戯会は大成功!神様と保護者の皆様に見守られ、どのクラスもお休みゼロで素晴らしい発表を披露してくれました。園児たちのお祈りが神様に届き、友だちと心を合わせ頑張ることができました。きつと神様も喜んでいてのことと思います。

幼稚園生活の様々な場面で子どもたちの心の成長を感じることが私の励みとなり、キリスト教保育を見つめなおす機会になっています。私自身も子どもたちと共に成長し続けられるよう、更に学びを深めていきたいと思っています。

これからも園児たちが神様からの愛をいっぱい感じ、神様の見守りの中で生きていくことに感謝しながら光の子として大きく強く成長してほしいと願っています。

そして、VUCAの時代(先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態)と言われる未来を生き抜いていく子どもたちにとってキリスト教保育が心の根っことなるよう、今後とも保育、教育して参りたいと思います。

『緑も深きナザレの村よ み足の跡を我は辿らん』  
— ナザレ修女会閉院に寄せて —  
主教 ヨハネ 吉田 雅人

ナザレ修女会は2022年6月30日(木)をもって、85年の歴史に幕を下ろしました。修女会の働きは、1936年に二人の志願者が修練女となったことにより始まり、18名の修女が「清貧・貞潔・服従」の誓いのもとで終生誓願を立て、祈りと奉仕の修道生活を送られました。同時にウエファアスや祭服・祭壇用布の作成、黙想指導やオールド・ギルドの指導、幼児教育等、様々な形で私たちの信仰生活を支えてこられました。

拝には順霊母、美代志修女をはじめ、14名の教区主教と退職主教、また様々な形で修女会の働きに関わられた信徒の方々が出席されました。

感謝礼拝の説教で、高橋東京教区主教は「ナザレ修女会は、本日をもってその活動に大きな区切りを付けます。終止符を打つのではなく、あくまでも一つの大きな区切りを迎えたのであり、その精神や祈り、霊性と受容性はこれからも決して消え去ることはないはず。その精神をクローズさせないこと、それが私たちの責務であると思います」と語られました。

女が二名となり、活動を停止せざるを得なくなったのです。この日の午後2時よりナザレ修女会聖家族礼拝堂において、「ナザレ修女会活動終了感謝礼拝」が行われました。礼

感謝礼拝終了後、順霊母様が「あさ子修女、美代志修女と共に榛名で祈りの生活をすること、修道院施設は日本聖公会に委譲し、聖公会の発展のために用いていただきました。」「旨のご挨拶をされました。また、礼拝後は中庭でお茶と歓談のひと時を持つ予定でしたが、新型コロナウイルスも考慮してこのまま解散したい旨アナウンサーがあり、特に集合写真も撮ることなく解散しました。使命を終えれば、過去に固執することなく静かに働きを閉じていく。まさに修道会らしい姿でありました。



「信仰の道」

鶴岡聖公会  
マリア 佐藤 清女



主の御名を  
賛美致しま  
す。

この原稿  
を書いてい

る本日15日復活第5主日、私  
にとつて誠に感謝の日なの  
です。1936年(昭和11年)  
5月15日この世に誕生し、数  
え年87歳を迎えました。一日  
一日を大切に生きていくこと  
に、心掛けております。何げ  
ない毎日、いつ迄このままで  
生きていくことが出来るのか、  
主のみ知る命なのです。主に  
感謝致します。

私が教会の門をくぐったの  
は、22歳の新年を迎えた時で  
す。今は亡き主人が連れて  
行ってくれたのです。当時、  
植松金蔵司祭様が司牧なさっ  
ており、主イエス様のこと、  
教会のこと、勉強させて下さ  
いました。1959年4月6  
日、最初の子を死産し、悲し

む間もなく、翌年4月13日元  
気な女の子を授かり、主人  
共々大喜びしました。

そうこうしている内、19  
62年6月21日、元々余り丈  
夫な方でなかった主人が急死  
してしまいました。

小さな乳呑み児を抱きなが  
ら、途方に暮れたこと多々あ  
りました。二度も羽越線の線  
路の所に、しゃがんでいた時  
背中の赤子の泣き声に、ハッ  
と我に返り、その後はただ、  
一生懸命に生きてきました。

現在、その娘も還暦を過ぎ  
2人の孫にも恵まれて、元氣  
に育っている男の子2人の姿  
を、スマホで時々私にも見せ  
てくれます。ほんとうに元氣  
をもらいます。

昨年11月命にかかわる病を  
乗り越え、現在、荘内病院外  
科病棟の主治医と、外来に昨  
年12月9日笑いながら手を  
取って下さった、あの時を大  
事に毎日毎日感謝して、過ご  
している現況です。

現在まで様々な病気を乗り  
越え、生き生きと過ごしてい  
られるのは、多大な主イエス  
様がいつも私のそばに、おい  
でになるからと確信しており

ます。自然と様々なことに、  
気が付くと祈っている自分が  
います。私には信仰が何より  
の栄養剤です。

現在月1回主教様御夫妻が  
仙台よりお出下さり感謝感謝  
にたえません。

いつか主人の待つ天国に、  
どの様にして行くのかなあと  
この頃、度々思います。

鶴岡聖公会も、細々ながら  
自分の出来る限りの力を出し  
除草したり、管理させてもらっ  
ています。時々淋しくなりま  
すが、いつでも、どこでも主  
がお守りして下さいおられ  
ると信じ、力をもらいます。

私生活の中には、グラウン  
ドゴルフ愛好会に属し、毎週  
火曜日の午後1時から、たっ  
ぱり2時間以上ゲームを楽し  
み、楽しい時間を過ごさせてい  
ただき、またまた感謝の気持  
ちと、満足な気持ち味わい、

こんなことにも主イエス様にお  
守りを受け幸せ幸せといつわ  
りのない気持ちです。この世で  
自分ほど幸せな者はいないと  
信じています。毎日毎家族  
に見守られ安住のきわみです。  
日々の安住、日々の暮らし、主  
に感謝いたします。アーメン

ます。自然と様々なことに、  
気が付くと祈っている自分が  
います。私には信仰が何より  
の栄養剤です。

礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、  
その意味を調べてみました。

(第22回 クリーデンス・テーブル)

祭壇の左  
側(東面の  
時は右側)  
に置いてあ  
る小さなテ  
ーブルのこ  
とを「クリ  
ーデンス・  
テーブル(cre  
dence table)」と呼  
びます。

教会では、聖餐式に用いるパ  
ン・ぶどう酒などを用意してお  
くテーブルのことを指します  
が、クリーデンスという英語は、  
「信用・信頼」という意味で、  
ラテン語のクレド(credo 私は  
信じます)が語源だそうです。

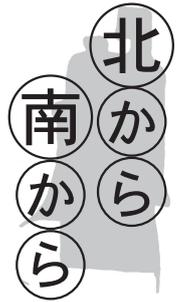
もともとは味見や試食のため  
の食物を置いたサイドテーブ  
ルを指す言葉だったようです。  
さて、このテーブルの上に置  
かれるパン(信徒用のウエファ  
ース)を入れる容器を「ブレッ  
ド・ボックス  
(bread box)」  
と呼び、読ん  
で字のごと  
く「パン箱」  
です。またぶ  
どう酒と水  
を入れる容  
器のことを



(仙台基督教会小聖堂：クリーデンス・テーブル)

「クルエット(cruet)」と呼ばま  
すが、これも単なる「小さな水  
差し」という意味です。ちなみ  
にブレード・ボックスの右側に  
あるのは、ラバボ・タオル  
(lavabo towel) とラバボ・ボ  
ール(lavabo bowl)です。ラバボ  
とは「洗手」という意味です。  
つまり、クリーデンス・テー  
ブルも含めて、その上に置かれ  
る各々の容器は特別なもので  
はなく、ごく一般的・日常的な  
ものであることが分かります。  
ですから大切なことは、それ  
らの容器に入れられたもの、つ  
まりパンとぶどう酒と水が献  
げられ、感謝聖別の祈り・聖霊  
を求め祈りのうちに、キリス  
トの御体と御血とされ、私たち  
を養ってくださるということ  
ではないでしょうか。また私た  
ちの日常性が、祈りと聖霊の働  
きを通して聖なるものとされ  
るということでもある  
と思います。

その意味で、それらを  
用意する机が「クリーデ  
ンス(私は信じます)テー  
ブル」と呼ばれるのは、  
奥深い意味があるよう  
に思いますが、いかがで  
しょうか。(教区主教)



### 八戸聖ルカ教会

今年の野外礼拝は改築されたヴァイアル山荘で行いました。自然の中に静かに佇む山荘は、私たちへの歓声に、少し驚いたように迎えてくれました。厳かな聖餐式、聖歌…。♪ガリラヤの風薫る丘で♪わずか10名の群れに、これまで山荘建設にご尽力、お祈り頂いた信友の方々の声なき声が心に響き、すべて、必要を満たしてくださる神様にお会いできたと思います。

帰路はご高齢の信徒訪問、墓参をして帰りました。

### 秋田聖救主教会

キリスト教国でも教会の鐘がうるさいと裁判が起こる時代ですが、秋田の鐘の音は地域の音として受け入れられています。平日は牧師が、主日には信徒が打鐘しますが、ある日曜日、鐘の音が聞こえたらとかわいいお客さんが礼

拝にやってきました。幼稚園に入園したばかりの子でした。鐘が鳴ったから教会に行こうとお母さんにせがんだのだそうです。もつと祈りを込めて鳴らさなくてはと思わされた瞬間でした。

### 仙台聖フランシス教会

去る6月19日(日)、約30名の子どもたちが参加し、2年ぶりに日曜学校野外礼拝を行うことができました。コロナ禍で何度も礼拝休止を余儀なくされたこの2年だったので、遠足に出かけるのは本当に久しぶりでした。「♪もりもやおやまもおひさまも〜」聖歌を歌う声がいっつも増し元気に聞こえ、神様の恵みに感謝し、仲間と共に祈る幸せを感じたひとときでした。

### 若松諸聖徒教会

3年振りに若松聖愛幼稚園のバザー開催の知らせを聞き、係の保護者の方の話し合いに同席させていただいた。私も我が子3人、計8年幼稚園にお世話になり、バザーは毎年大盛況で一大イベントだった。若い保護者の方の話し合いに

耳を傾けながら、遠い記憶を辿り懐かしい気持ちになった。信徒も少なくなりお手伝いできることは限られるが、園児やご家族の皆さんとご一緒にできる日が待ち遠しい。

### 東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

◆7月地域活動状況 「お買い物支援バス」4回行われ延べ27名が利用。「水曜喫茶」7月13日開催当日、大雨洪水警報と土砂災害警戒情報発令のため中止。「第99回広畑お茶会」29日17名(内スタッフ5名)が集った。

◆福島県や原発に関連する現在進行形の諸問題が発生しており、それらは「いのち」を脅かすものばかりです。解決にはさまざま困難を乗り越えなければなりません。まずは1人でも多くの皆さんに署名のご協力をお願いします。

### 聖公会生野センターが設立30周年を迎えます

1992年の設立来、地域の人々と共に歩み、特に「日本人と在日韓朝鮮人」「健常者と障がい者」が共に生きることを願い、様々な取り組みを続けています。お働きを覚え、お祈りください。

### 聖公会生野センター30周年記念感謝礼拝「そこにキリストは共にいる」

～弱った手に力を含め  
よるめく膝を強くせよ。(イザヤ：35：3)～

2022年10月10日(月・休)  
13時30分～  
場所：プール学院中学校・高等学校  
メアリーズホール  
(大阪市生野区勝山北1-19-31)

①311子ども甲狀腺がん裁判「原告の意見陳述」と「大法廷」での裁判を求める署名  
②「子ども脱被ばく裁判」への公正な審議と判決を求める第1次署名  
③アルプス(ALPS)処理水海洋放出に反対する署名  
④寿都町・神恵内村で行われている核ゴミ処分地を作るための調査を進めさせないでください署名  
⑤「青森県を高レベル放射性廃棄物の最終処分地としない」条例制定を求める請願(リーダー・司祭 長谷川清純)

### 堅信おめでとう

テレサ 田野入 亜紀子  
(7月31日・小名浜)

### 永遠の平安

マーガレット 宇夫方 照美  
(7月26日・盛岡)

### 9月逝去者記念聖餐式

9月13日(火) 午前10時  
於 主教座聖堂  
司式 吉田 雅人 主教  
説教 李 贊熙 司祭

宣教師 Miss Ellen McRae  
1921年9月6日逝去

執事 森 録次郎  
1934年9月10日逝去

司祭 結城 光雄  
1973年9月10日逝去

司祭 James Chappell  
1954年9月16日逝去

主教 コルネリオ田崎 安男  
2009年9月22日逝去

伝道師 ルツ 高橋 菊代  
1954年9月23日逝去

司祭 志賀 清光  
1935年9月25日逝去

司祭 ルカ釜范 東祐  
2002年9月27日逝去